

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校が位置する山田町は、東日本大震災で大きな被害を受けた。現在は、仮設住宅がほとんどなくなり、復興公営住宅などの建設も進み、復興の途中にある。

山田町は、何度も津波被害に遭っており、被災体験を忘れず語り継ぎ、安全に生活を送り、地域の持続的な発展に努めなければならない。

また、災害とは地震と津波だけではない。近年は、この近辺でも台風等による被害を受けることが多くなっている。

東日本大震災での教訓を学び直し、今後の安全な生活、山田町の発展に寄与する人材を育成することが必要である。

今年度、1年生が総合的な探究の時間を使い、復興防災学習を行った。その一環として、震災学習列車で被災地を巡り、復興状況を学び、釜石市鵜住居町の「いのちをつなぐ未来館」を見学し、震災時の状況や今後の安全について講話を受けた。

この列車を使った学習を皮切りに、過去の津波に関する新聞を使った学習、地域の石碑を紐解き、新聞作成やグーグルマップ作成に取り組み、多角的に復興や防災について探究した。

II 取組の概要

1 列車を活用した被災地見学

宮古駅で震災学習列車に乗車し、鵜住居駅へ向けて出発。車中にて、三陸鉄道担当者より、震災時の状況、鉄道復活への道のり、現在の沿線の状況、津波対策等の説明を受け見学した。



2 いのちをつなぐ未来館訪問

釜石市鵜住居町の「いのちをつなぐ未来館」を訪問し、施設内の展示の見学を行った。また、震災当時、釜石市立釜石東中学校3年生で、実際に小学生の手を引いて避難した職員の菊池のどかさんから、「釜石の奇跡」と呼ばれた避難について、避難訓練や日頃の安全への意識、復興状況についての講話をいただいた。



生徒の感想

〔A組 藤原 奈知さん〕

三陸鉄道、震災学習列車に乗り、釜石の語り部さんの話を聞き、震災を経験した私たちですが、改めて津波の怖さを感じました。釜石東中学校の震災での行動は有名ですが、くわしくは知らなかったもので、実際、当時中学3年生だった語り部さんの話を聞き、その時の辛い様子を共感でき、自分もその感情を思い出しました。

〔B組 福士 春佳さん〕

震災のときの話しだけでなく、三陸鉄道の今と昔の違いや、三陸鉄道の始まりについても話を聞きました。三陸鉄道はなくてはならないものだと思います。

震災学習列車というものは、他にはないと思うので、他県の方にも来ていただき、三陸鉄道の良さや、震災の怖さも知ってほしいと思いました。

〔A組 加藤未沙希さん〕

震災のことを語り継ぐのは、語る人にも勇気が必要だということが、印象に残っています。復興は進んでいます、震災の爪痕は残っています。でも、それを全部なくすことが本当に良いとは限らないと思います。どんなにたくさん話を聞くよりも、

実物を見た方が分かりやすいと思うからです。だから、いのちをつなぐ未来館のような施設があることは、震災を知らない人に防災意識を芽生えさせたり、避難することがどれほど大切か知ってもらえたりする、いい機会になります。

3 石碑調査及び語り部へのインタビュー

1学年を8班に分け、町内4カ所の石碑を各班2カ所ずつ訪れ、石碑の位置、設置の時期、碑文の内容等を調べた。また、各石碑について、地域の語り部の方等から、石碑の意義や歴史、津波の経験等を学習した。

それを基に、グーグルマップに石碑の位置や石碑に関する情報を載せ、また新聞にまとめた。

その後一連の震災学習の成果を発表し共有した。



Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

(1) 震災学習列車

三陸鉄道はもちろん鉄道沿線の震災での被害状況や復興について、実際に見ながら説明を受け、改めて地震、津波の怖さを確認するとともに、復興への取り組みについて学習することができた。

震災時に小学2年生ほどだったことや車での移動が常套手段であること等の理由で、本校の多くの生徒が三陸鉄道を利用した経験が少ない。そういう生徒が三陸鉄道に乗車することにより、この鉄道設備が地元の

生活や経済活動に大きな影響を持つ資源であることを実感させることができた。

また、鉄道施設の復興、運行には多くの人の努力の賜であることを理解することができた。

(2) いのちをつなぐ未来館

展示を見学し、実際の避難経験者の話を聞くことで、避難の大切さを実感することができた。

また、今後の日常生活の中での防災への意識向上、他人への思いやり、安心して生活できる地域づくり等への示唆を受けた。

(3) 石碑の調査や語り部の皆さんへのインタビュー、そしてそれをグーグルマップや新聞にまとめることによって、改めて山田町がいかに関津波の被害に遭い、復興してきたかを学び、今後の防災を考え、自分たちはどうするべきかを探究することができた。

2 課題

(1) 震災学習列車

今回は、宮古駅～鶴住居駅までの行程での学習であった。陸中山田駅～盛駅など、より広い範囲での震災学習列車が可能であれば、様々な地域の復興を学習でき、今後の地域づくりに資することができる。

また、より広い範囲を見学できれば、三陸ジオパーク内を走っているの、地形を学び、今後の地域発展のアイデアと結びつけ学習を深めることができる。

(2) いのちをつなぐ未来館

今回は展示の見学と語り部さんからの講話であった。今後「いのちをつなぐ未来館」と協働での研修内容を考え、防災学習を深めたい。

(3) 石碑調査及び語り部へのインタビュー

岩手日報社を中心に、IBC岩手放送、グーグルマップ、NTT、そして地域の皆さんの協力で充実した「総合的な探究」を実施できた。今後、3年間を見通した本校の体制を確立し、外部の方々との協力体制を築いていけるのが課題である。